

# 令和5年度 学校評価表

【評価の基準】 A:達成できている B:概ね達成できている C:あまり達成できていない D:全く達成できていない

学校教育目標		総合評価					
学校教育目標	豊かな人間性と高い教養を持ち、他者と協働し、主体的に将来を切り拓く力と、地域・社会を牽引する資質を持った人物を育成する。	<p>新型コロナウイルス感染症が5類へと引き下げられ、ここ数年間制限されていた生徒会活動やPTA活動など、様々な活動を本来のかたちで実施することができた。中でも文化祭やクラスマッチ、コーラスコンクールでは生徒達の生き生きとした姿が多く見られた。地域の方々や同窓会、PTA等のご協力やご支援もあり、充実した学校生活を送れていることに感謝したい。各係が担当ごとに行った自己評価は下表の通りである。概ね年度当初の目標に到達していると考えられる。</p> <p>コロナ禍で利用が進んだ生徒の一人一台タブレットをはじめとしたICT機器は、休校時のオンライン授業だけでなく通常授業においても活用されている。今年度もICT機器に関する職員研修を行ったが、生徒の興味・関心を引き出し、思考力・表現力等を育成するために有効な利用方法を継続して研究していきたい。</p> <p>今年度2年生から週2時間の探究学習が本格的に始まった。地域の課題等、自身の関心に基づいて設定したテーマで主体的に学習に取り組み、発表を行うことができた。より深化した探究学習のために、職員の指導・支援する力も高めていく必要がある。</p>					
重点目標(中・長期的目標)	<p>◇保護者・地域との連携を深め、信頼を得る学校づくりを行う。</p> <p>◇社会の形成者として必要な規範意識の涵養とマナーの向上及び協働意識の育成を図る。</p> <p>◇生徒一人ひとりの興味・関心、能力・特性に応じた適切な指導・支援を行うことにより、豊かな人間性を養い、社会を担う人材を育てる。</p>						
今年度の重点目標	<p>◇国際的な教育カリキュラムを研究する学校として、先進的な学びに取り組み、新たな教育課程及び評価方法を研究するとともに、他校に向けて発信していく。</p> <p>◇豊かな知識に基づく思考力、表現力、判断力及び主体的に課題を解決しようとする態度を身につけた生徒の育成を目指す。</p> <p>◇職員、生徒及び保護者が相互に意思疎通を図り、いじめや体罰のない安心安全な学校づくりに努める。</p>						
		成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
		国際的な教育プログラムを研究する「未来の学校」構築事業では、今年度より新学校設定科目の授業を開始した。また、観点別評価の実践内容などを校外へ向けた研修会で発信した。		○			新学校設定科目は2科目とも試行錯誤しながら実践しており、受講生の意見も取り入れて内容の充実を図りたい。
		今年度2年生から本格実施となった探究学習や、授業内でのパフォーマンステストによって、知識偏重とならないバランスの取れた力を育成すべく取り組んだ。		○			観点別評価の理解とルーブリックの活用を進め、必要に応じて校内研修や外部講師による講演を実施していきたい。
		配信メールやgoogle classroomを用いて学校の様子を伝えたり、支援窓口の案内を行ったりした。学校施設の不備があり、男女更衣室の整備を行った。			○		各種アンケート結果を迅速に職員で共有できるような体制を整え、学習面・生活面ともに個々のニーズにすばやく応じられるようにしたい。

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教育	教育課程	生徒・保護者及び地域の期待・要望を勘案し、風越高校の特色を生かせる教育課程の検討を進め、提示していく。	次年度の講座・科目選択において、各学年と協力して、生徒の進路や興味・関心に応じたコース等の提示ができたか。	次年度から大きく変わる3年生の選択科目は、概ね生徒の希望に添える形で編成できたが、生徒の科目選択の決定が遅れてしまい、教科書数の決定などに影響が出てしまった。			○		科目選択は1・2年生ともに9月の面談旬間で生徒および保護者の意向を把握し、10月初めには決定するようにしたい。
			新教育課程表について、さらに改善すべき点があれば改善し、見直しをすることができたか。	新教育課程表については特に見直しを必要とするところはなかったが、科目選択の段階で変更をする必要が生じたため、一部を変更した。	○			来年度は全学年が新教育課程となり、3年次の選択科目の編成については改善の必要が出る予想されるため、教育課程表の見直しも含めて検討していきたい。	
	学習指導	学力の向上を図るために学習習慣の確立に努める。また、総合的な探究の時間(Fの学び)の在り方について検討・実践していく。	家庭学習の充実を図ることができたか。	朝学習の実施によって毎朝学習に向かう姿勢はついてきているが、スタサポ等のデータを見ると、高校入学当初よりは学習時間が減少している生徒が1・2年生で特に顕著な傾向にある。			○		受験などの「必要感」がないとどうしても学習に向かいにくく考えられるので、年度当初に1・2年生には学年集会で伝えてきた。そのような生徒の視点にたっしたしかけづくりが必要だと感じる。
			生徒の進路・ニーズに合った学習指導はできたか。	長期休みの補習等では、小論文講座を開講したり探究に関わる学びを行ったりと、今後の大学入試の傾向をふまえて例年以上の工夫をしてきた。		○			本校の進路状況を見ると、推薦入試で小論文や面接、探究等を用いる生徒が多い。一般入試対策と並行しながら、その部分へのアプローチもこれまで以上にしていける必要がある。
			未来の学校事業の研究とも関連させながら、より良い「Fの学び」について検討、計画をすることができたか。	特に2年生を中心に、年間を通した計画的な探究を実施できた。また、その中で主体的に探究を進めていく生徒の姿も多くみられ、成果が得られた。	○			今年度の計画をベースにしなが、今後は1年生の探究(ブレ探究)についても、計画的に実施していけるよう工夫する必要がある。	
	育	進路希望に合わせた情報の提供と指導を行う。	生徒の意識の高揚を図りながら進路希望に沿った指導ができたか。	様々な機会を通して生徒に進路情報を提供し、意識の高揚を図ることができた。進路室を来訪する生徒達には係職員が丁寧に個別指導するなど、多様な進路選択に対応する一人一人きめ細かい進路指導ができた。			○		学校説明会等がオンラインで行われる場合は、正確な情報を得られるよう支援していく必要がある。卒業生の受験報告の活用、受験情報誌のクラス配布、志望に沿った小論文指導や面接指導を通じて進路意識の高揚を図る。
職員間の進路情報、指導法の共有を図る。			模試情報の迅速な共有とオンラインでの情報活用技術向上の取り組みができたか。	模試の結果を迅速に職員間で閲覧し情報の共有に努めた。3学年会では大学共通テストの判定システム利用に関する講習会を実施して、懇談会資料として役立てた。			○		BENESSE HIGHSCHOOL ONLINE と FINE または、KEI-NAVIの活用を促進し、模試結果や、進路情報の有効活用を図る予定である。
キャリア教育の課題を具現化した進路指導を行う。			「Fの学び」等を通して、進路意識を高揚させることができたか。	大学模擬講義(9月)、職業学習(1月)などを実施した。アンケートを見る限り、進路意識向上に一定の効果があったと思われる。			○		大学等卒業後のUターン就職の参考にもなるよう、飯田市地域産業振興課と協力して多様な職業学習を実践し、キャリア教育の充実を図りたい。
生徒支援	社会規範・交通規則・校則を守る意識を高め、いじめのない自律的な学校生活を送れるよう支援・指導を行う。	いじめ案件などにすぐに対応できたか。	年2回生活アンケートを実施し、いじめの早期発見につとめることができた。複数の職員で早期に対応することができた。			○		アンケートにでてこない事案の把握のため相談しやすい環境をつくる。引き続き、職員間の連携を深め、組織として対応していく。	
		規範意識が高められたか。特にSNSの危険性について理解が深まったか。	年度初めの4月に学年ごと、スマホ安全教室を実施し、注意喚起した。SNSについては11月にも外部講師による全学年対象の安全講習会を実施し、理解が深まった。			○		誤った使用方法を繰り返してしまう生徒への指導について課題が残るため、感情のコントロールなど支援の方法を工夫する。	
	地域・家庭との連携を図り、安心・安全な環境を維持する。	地域・家庭との信頼関係を深めることができたか。	地域からの意見要望に対しては必要に応じて全校へ伝えることに努めた。家庭との連携には丁寧な対応を心がけた。				○	注意喚起等については配信メールを活用する。家庭との連携は引き続き丁寧な対応を心がける。	

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教育活動	教育相談	教育相談態勢の充実を図る。	職員間で共通認識を持ち、適切な支援ができたか。	毎週の係会を通して、学年会・担任会での情報共有を図れた。共通認識を持つことについては、努力はしているものの、達成できてはいない。次年度の課題としたい。			○		発達障害や合理的配慮について、共通認識を持つための研修が必要。また、共通認識を持つためには、日々の業務にゆとりが生まれ、教職員間で雑談等ができるような環境づくりが必須。
			関係機関の活用、連携ができたか。	SCやSSW、役所、保健所等と連携することができた。今後も連携できる機関を増やしていきたい。		○			「下伊那地区関係 支援マップ」を積極的に活用する。他校の特科とのつながりを大切にし、情報交換の場となる研修等に積極的に参加する。
		自治活動としての支援を図る。	委員会、部活動、風越祭など充実して行えたか。	風越祭や部活動において、顧問のご指導のもと、計画から実行に至るまで生徒自らが達成感を得るような活動に近づけた。委員会活動では、年間の見直しを持って支援することが課題であった。	○				委員会活動においては、年間を見通して計画を立て、委員会内での仕事の分担や全校への働きかけがまだ不足しているところに対していかに最小の支援で生徒の成長を促せるかを目標とする。
	生徒会	協働して物事に臨む姿勢を促す。	参集型の生徒総会や集会などの運営や参加により協働して行事に臨めたか。	今年度は役員で協働し、全校生徒が体育館で一堂に会する場面をつくり集会をおこなうことはできた。協力的な生徒がいる一方で関心の薄い生徒たちへの働きかけが課題である。		○			役員や代議員からクラスへの呼びかけの仕方や、一般生徒の意見を集約して反映させるような方法を工夫して、生徒総会への関心を高めていきたい。
			地域を意識した活動により社会性を育む。	風越祭の企画等において外部の方を意識した発表を盛り込むことができたか。	今年の文化祭では一般公開も実現し、企画や発表などで地域の方など校外の方を意識した発表や工夫も多く見られた。またコーラスコンクールも公開出来た良い成果発表の場となった。		○		
		自己の健康課題を把握し、健康の保持増進・感染症対策に主体的に取り組む力を育てる。	健康の保持増進に努める取り組みをサポートできたか。	毎朝の体調チェックシステムを用いて体調管理の把握を行い、生徒の体調の変化に応じた対応ができた。		○			毎朝の体調チェックシステムへの入力が習慣化されてきたが、継続して体調の自己管理・健康増進についての呼びかけを行ってきたい。
	保健	夏場の熱中症の予防等、季節に合わせた体調管理ができるよう、啓発活動を行うことができたか。	授業中の水分補給を促したり、夏場の学校行事や部活動など学校生活では暑さ指数(WBGT)をみながら活動を行うことができた。また、エアコンの使用も熱中症対策につながった。	授業中の水分補給を促したり、夏場の学校行事や部活動など学校生活では暑さ指数(WBGT)をみながら活動を行うことができた。また、エアコンの使用も熱中症対策につながった。		○			エアコンが設置されていない教室・研究室がまだあり、教室を変更するなどの対策を引き続き検討していく必要がある。
			年間を通して感染症の予防に努め、校内での感染症の蔓延を最小限にとどめる取り組みができたか。	感染症の拡大防止のため校内各所手指消毒の設置など感染対策を行うことで、生徒・職員への意識づけを行うことができた。		○			新型コロナウイルス感染症が5類へと引き下げられたが、まだまだ油断はできないので、引き続き感染症対策に努めていきたい。
			図書館の利用促進をいっそう図るとともに、探究学習や進路実現のための資料の拡充を目指す。	図書館の情報発信・環境整備、資料の拡充とともに、資料閲覧、調査、貸出が円滑に行えたか。	授業や進路実現のための資料提供がスムーズにできた。また、Google Classroomを活用して機関紙をデジタル化したり、生徒のデバイスから蔵書検索ができるよう整備した。		○		
	視聴覚	タブレット端末等を利用して学びの継続や伝統文化に親しむ機会を保障する。	生徒への学びの提供が行えるよう環境を整えていくことができたか。	芸術鑑賞は一校一斉で演劇「エディ」を鑑賞し、感謝の気持ちや基礎の積み重ねの大切さを感じ取るなど、生徒の情操を豊かにするものにつながった。グループワークを活用し、グループワークやレポート提出などで効果的に活用することができた。		○			来年度の芸術鑑賞は音楽を演目にして通常開催する予定である。グループワークの活用を研究推進するとともに、生徒に有益な学習用アプリの導入等も検討し、自学自習ができるように進めていきたい。
			個人が人間らしさを保ち、自立して生きていくための基本的な人権を享有し、人間の尊厳を尊重して差別・偏見・いじめを容認しない意識の向上や環境を整える。平和や真理を希求する人格を育成し、人権尊重の実践を目指す。	平和人権学習や修学旅行体験を通じて、戦争と平和、差別や不当な人権侵害の事例について学び、人権感覚を養い、磨くことができたか。	全校で教室ごとのリモートによる映画鑑賞を実施した。今年度は、被差別部落問題をテーマに取り上げ、島崎藤村原作の「破戒」を鑑賞した。感想文では深刻な社会的差別があった時代にショックを受けるとともに、主人公の差別に立ち向かう姿勢に感銘を受けたというものが多かった。また、二年生の修学旅行では、被爆地広島、被災地神戸を訪れた。		○		
	人権平和	個人が人間らしさを保ち、自立して生きていくための基本的な人権を享有し、人間の尊厳を尊重して差別・偏見・いじめを容認しない意識の向上や環境を整える。平和や真理を希求する人格を育成し、人権尊重の実践を目指す。	個人の尊厳や命の尊厳について学び、人権意識の向上を図ることができたか。	修学旅行へ向けての事前学習として、原爆被害者の方を講師として迎え、リモート形式で講演会を実施した。実際に広島では、原爆ドームを間近に見学し、地元ボランティアの方の説明を聞き、被爆地広島への関心や人権平和に対する意識を高めることができた。		○			平和人権学習の時間を確保するだけでは、その場限りで終わってしまうことがあるので、あらゆる学習活動を通じて取り組んでいく姿勢が必要であると思われる。
保護者や地域との連携・交流に努めるとともに、積極的に情報を発信し、より一層開かれた学校づくりを進める。			配信メールや広報誌、Webページで学校情報を積極的に発信できたか。	Webページは校長ブログ・校長通信・部活動の様子を新設し、より多くの情報を掲載することができた。広報誌「Fuetsu News」も配信メールで生徒・保護者へ、また回覧板で地域の皆様へ届けることができた。		○			来年度も今年度並みの頻度で定期的に更新・配信し、学校情報を積極的に発信していきたい。
学校運営	保護者や地域との連携・交流に努めるとともに、積極的に情報を発信し、より一層開かれた学校づくりを進める。	PTA活動や学校評議員会の意見を学校の教育活動に生かすことができたか。	PTA活動はコロナ禍以前の水準で事業を行うことができた。校内衛生状況確認等いただいた意見を、可能なことから実施している。学校評議員会は予定通り開催し、貴重な意見をいただいた。		○			PTA活動に関しては、担当になった保護者・教職員の負担軽減のため、事業の精選・見直しを進めている。今後も様々な方たちで保護者の意見を聞くことができるように工夫をしていきたい。	